

| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セクター | 単位数 | 担当教員名 |
|-----------|---|--------|-----|-------|
| 文学・文化学Ⅰ   | 全学科選択   | 1～8    | 2   | 高橋秀晴  |
| 授業の目標     | <p>明治・大正・昭和の日本文化の軌跡を、文学作品に現れた作家の問題意識を通して捉える。その作業により、人生の普遍的意味について考察することを目指す。なお、具体的到達点としては、以下の三点を想定している。</p> <p>(1) 日本近代文学の基本的方向性について理解できる。<br/> (2) 小説の読み方に関する基本的理論を理解できる。<br/> (3) 太宰治作品の特徴が指摘できる。</p>  |        |     |       |
| 授業の概要・計画  | <p>第1週 オリエンテーション①<br/>文学という芸術形式の特徴、及び、教科書、講義形態、成績について説明する。</p> <p>第2週 オリエンテーション②<br/>坪内逍遙・二葉亭四迷・森鷗外の登場、日本自然主義文学、プロレタリア文学等を中心に日本近代文学について概説する。</p> <p>第3週 太宰治の文学活動を概観する。</p> <p>第4週 「葉」 … 作品の構造とその効果について説明する。</p> <p>第5週 「思い出」 … 作品に託されたメッセージについて説明する。</p> <p>第6週 「魚服記」 … 時代背景との関わりを中心に作品を解析する。</p> <p>第7週 「列車」 … 作中人物の証言の作為性について説明する。</p> <p>第8週 「地球図」 … 作品の設定意図について説明する。</p> <p>第9週 「猿ヶ島」 … 風刺性という観点から作品の創作意図を説明する。</p> <p>第10週 「雀こ」 … 作品に於ける事実と虚構の問題について説明する。</p> <p>第11週 「道化の華」 … 語り手の問題に着目しつつ作品の意義を説明する。</p> <p>第12週 「猿面冠者」 … 作中に潜在する不安について説明する。</p> <p>第13週 日本近代文学史上における太宰文学の独自性について説明する。</p> <p>第14週 文学作品を享受する意義について説明する。</p> <p>第15週 期末試験（筆記用具持参のこと。）</p> |        |     |       |
| 成績評価の方法   | <p>○試験（またはレポート）・発表・出席状況等によって総合的に判断する。</p>   |        |     |       |
| テキスト・参考書等 | <p>①テキスト ②太宰治 ③『晩年』 ④新潮社 ⑤540円</p>  |        |     |       |
| 履修上の留意点   | <p>○対象とした作品について発表し合うという演習形式を採る。</p>   |        |     |       |
| 備考        | <p>○講義外の幅広い読書・思索活動を強く期待する。</p>  |        |     |       |

| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名 |
|-----------|---|---------|-----|-------|
| 心理学 I     | 全学科選択   | 1～8     | 2   | 田中平八  |
| 授業目標      | <p>人間は養育者の保護なしには生存できない絶対的依存状態で生まれてくる。そして、家族や社会の相互作用のなかで「こころ」を段階的に発達させ、社会的行動を身につけていく。依存からの自立へと向かう人間の発達過程の特徴と青年期のさなかにいる学生諸君が自らの個性を前向きな姿勢で認識できるよう授業をすすめる。</p>  |         |     |       |
| 授業の概要     | <p>発達心理学、青年心理学、人格心理学、臨床心理学の領域から話題を選んで講義を行う。パーソナリティテストなども体験してみる。</p> <p>主なトピックス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児の能力と世界</li> <li>・親子の絆－愛着関係の成立と発展</li> <li>・認識・思考・言語の発達過程</li> <li>・性的成熟とアイデンティティの模索</li> <li>・依存と反抗</li> <li>・パーソナリティと個性</li> <li>・思春期の輝きと危機</li> <li>・学校・就職・恋愛・結婚・親業</li> </ul> |         |     |       |
| 成績評価の方法   | <p>学期末定期試験における論述の内容による。</p>   |         |     |       |
| テキスト・参考書等 | <p>特に定めない。</p>  |         |     |       |
| 履修上の留意点   |   |         |     |       |
| 備考        | <p>平成19年度は第1・3・5・7セメスターで開講する。</p>   |         |     |       |

| 授業科目名                                | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名 |
|--------------------------------------|---|---------|-----|-------|
| 哲学・倫理学Ⅰ                              | 全学科選択   | 1～8     | 2   | 紺野 祐  |
| 授<br>業<br>の<br>目<br>標                | <p>「《人間の本性》を考える」</p> <p>本講義では、現代の多様な経験科学から人間理解にかんする諸知見を参照しつつ、人間学／人間科学の立場から「人間とは何か」を検討する。その過程で以下の目標の実現が期待される。</p> <p>①人間理解の基礎的な枠組みとして、ダーウィン主義進化理論を概観する。</p> <p>②重層的・輻輳的な人間行動の諸側面を、その進化的な起源をもとに理解する。</p> <p>③科学・技術を産出して活用し、また倫理的・道徳的にも振る舞いうる人間の可能性と被限定性を包括的に考察する。</p>   |         |     |       |
| 授<br>業<br>の<br>概<br>要<br>・<br>計<br>画 | <p>はじめに 人間理解の視座</p> <p>(1) 人間理解の思想史・概略</p> <p>(2) 人間理解における自然主義の問題と可能性</p> <p>第1節 進化論の基礎的理解</p> <p>(1) ダーウィン主義進化理論の基礎的理解</p> <p>(2) ダーウィン主義進化理論の現代的理解</p> <p>(3) 進化論的人間理解にまつわる誤解と危険性</p> <p>第2節 ホモ・サピエンスの進化論的理解</p> <p>(1) 人類の進化：「脳」を中心に</p> <p>(2) 知能と学習・その1：“バイアスのかかった学習”</p> <p>(3) 知能と学習・その2：「ことば」の機能と社会性</p> <p>(4) 知能と学習・その3：象徴・類推・予見</p> <p>(5) 人間形成の場面：「集団社会化理論」を中心に</p> <p>(6) 《人間の本性》と社会</p> <p>おわりに 《人間の本性》と生命の未来</p> |         |     |       |
| 成績評価の方法                              | <p>学期末のレポート、および授業期間中に課す小レポートにより評価する。</p>  |         |     |       |
| テキスト・参考書等                            | <p>テキスト：指定しない。（毎回レジュメを配布する。）</p> <p>参 考 書：授業内容にそくして適宜紹介する。</p>  |         |     |       |
| 履修上の留意点                              | <p>「哲学・倫理学Ⅱ」で扱う内容は、科学的な人間理解を取り込んだ哲学の一例である。</p> <p>必要ないしは興味があれば、「哲学・倫理学Ⅱ」も受講してほしい。</p>   |         |     |       |
| 備考                                   | <p>学生の希望・授業の進度等により、内容を多少変更して講義する場合もある。</p>  |         |     |       |

| 授業科目名     | 必修・選択  | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名  |
|-----------|--|---------|-----|--------|
| 社会学 I     | 全学科選択  | 1・3・5・7 | 2   | 小松田 儀貞 |
| 授業目標      | <p>少子高齢化、労働力の非正規化など、産業化社会のなかで家族のあり方や人々の働き方は大きな変化を遂げている。産業化社会の特質を理解することを通して、主として「家族と労働」に焦点を当て、身近な問題を取り上げながら、現代日本社会の現状と課題について考える。</p>  |         |     |        |
| 授業の概要     | <p>1 産業化と社会変動<br/> 2 「近代家族」の形成<br/> 3 働き方の変化と「近代家族」の変貌<br/> 4 家族と教育、労働と教育<br/> 5 社会階層と家族<br/> 6 家族と労働のゆくえ</p> <p>主なトピック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「高度成長」のインパクト</li> <li>・ 世帯構造の変化</li> <li>・ 家族とジェンダー</li> <li>・ 労働形態の柔軟化</li> <li>・ ニート、フリーター問題</li> </ul> |         |     |        |
| 成績評価の方法   | <p>期末のレポートと講義内の小レポートの総合評価</p>  |         |     |        |
| テキスト・参考書等 | <p>基本的に配布プリントで講義を進める。必要なものは随時指示する。</p>   |         |     |        |
| 履修上の留意点   | <p>普段から、新聞、TVの報道、ニュースに関心を持つようにしておくこと。</p>  |         |     |        |
| 備考        |  |         |     |        |

| 授業科目名                            | 必修・選択  | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名  |
|----------------------------------|--|---------|-----|--------|
| 社会学Ⅱ                             | 全学科選択  | 1・3・5・7 | 2   | 小松田 儀貞 |
| 授業<br>目標                         | <p>「近代社会とはどういう社会か」について考える。</p> <p>前半は、社会学の古典をふまえ、歴史的に形成されたものとして社会を見ることを学びながら、近代社会の基本的性格を「資本制」と「合理化」の視点から理解することをめざす。</p> <p>後半は、近代社会固有の論理の帰結としての現代社会の性格を文化と権力の視点から理解することをめざす。</p>   |         |     |        |
| 授業<br>の<br>概<br>要<br>・<br>計<br>画 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「社会」とは何か：「社会」を見る視座</li> <li>2 近代市民社会の形成：自立した個人の誕生</li> <li>3 「資本制社会」としての近代：商品、貨幣、資本そして人間</li> <li>4 「合理化過程」としての近代：宗教と人間、官僚制と人間</li> <li>5 動態的社会としての現代：自由と平等のゆくえ</li> <li>6 文化と権力：「教育」の機能</li> </ol> |         |     |        |
| 成績評価の方法                          |  |         |     |        |
| 期末の筆記試験（もしくはレポート）と小レポートの総合評価     |  |         |     |        |
| テキスト・参考書等                        |  |         |     |        |
| 基本的に配布プリントで講義を進める。必要なものは随時指示する。  |  |         |     |        |
| 履修上の留意点                          |  |         |     |        |
| 備考                               |  |         |     |        |

| 授業科目名       | 必修・選択  | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名                           |
|-------------|--|---------|-----|---------------------------------|
| 総合科目Ⅰ 人間と環境 | 全学科選択  | 3・5・7   | 2   | 高橋秀晴 紺野祐<br>田中平八 ○小松田儀貞<br>新任教員 |
| 授業の目標       | 「人間と環境」をテーマに、総合的な視野から物事にアプローチする見方を養うとともに、テーマに対する理解を深めることを目標とする。  |         |     |                                 |
| 授業の概要・計画    | <p>(概要)</p> <p>「人間と環境」のテーマをもとに、人文・社会科学の教員がオムニバス方式で下記の授業を行う。</p> <p>(トピックス)</p> <p>A. 作家の生成過程について、環境との関わりという面から考察する。(高橋)</p> <p>B. 子どもの人間形成のプロセスにおいて環境要因がどのように影響しうるかを、とくに危機的状況に直面した場合に示される“レジリエンス”現象にそくして考察する。(紺野)</p> <p>C. 自然景観や人工景観(例えば建物とか)を認識する心的な仕組みを、環境心理学の視点から紹介する。さらに、人間関係に比べて比較的軽視されがちな、物理的環境の側面が人の心的な状態を改善する道筋にも言及する。(田中)</p> <p>D. 「自然的-社会的存在としての人間」という認識を基盤に、人間と環境の相互的かつダイナミックな関係の諸相について学習する。(小松田)</p> <p>E. 人間の経済活動に伴う環境問題について学習し、経済の持続的発展と環境保全を調和させる社会経済システムについて考える。(新任教員)</p> |         |     |                                 |
| 成績評価の方法     | レポート。提出方法および時期については、第1回目の授業ならびに期末の掲示の中で指示する。   |         |     |                                 |
| テキスト・参考書等   | テキストは指定しないが、参考書は各教員が適宜指示する。  |         |     |                                 |
| 履修上の留意点     | オムニバス形式の授業の詳細は、初回の授業において説明する。  |         |     |                                 |
| 備考          |  |         |     |                                 |

| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名           |
|-----------|---|---------|-----|-----------------|
| 総合英語Ⅱ     | 全学科選択   | 3       | 2   | Stephen Shucart |
| 授業の目標     | <p>The aim of this course is to use an adaptation of an American High School Science textbook to teach English for Special Purposes[ESP]</p>  |         |     |                 |
| 授業の概要・計画  | <p>The methodology of this class is based on Neal Anderson's 'Active reading', and provides a way to improve the student's comprehension of basic scientific knowledge as presented in a high school science textbook written for native English speakers. Using this method, the student's basic background knowledge of science will be tapped as a source of comprehensible input.</p> <p>Topics covered in the class include:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. The Nature of Science</li> <li>2. The Way Science Works</li> <li>3. What is Matter</li> <li>4. Properties of Matter</li> <li>5. Atomic Structure</li> <li>6. Dangers and Benefits of Nuclear Radiation</li> </ol> <p>This class will also provide experimental linguistic data for a research project based on using an Apple iPod to provide essays on relevant scientific topics in the mp3 format.</p> |         |     |                 |
| 成績評価の方法   | <p>Students will be graded on attendance, Homework and Tests</p>  |         |     |                 |
| テキスト・参考書等 | <p>Holt Science Spectrum; A Balanced Approach</p>   |         |     |                 |
| 履修上の留意点   | <p>Students must bring a dictionary to class</p>  |         |     |                 |
| 備考        | <p>This class will require a lot of reading.</p>  |         |     |                 |

| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名                       |
|-----------|---|---------|-----|-----------------------------|
| CALL I    | 全学科必修   | 1       | 2   | 高橋守 檜山晋<br>S. Shucart 榎木蘭鉄也 |
| 授業の目標     | 日常的なコミュニケーションの場での、ナチュラルなスピードで比較的平易な基本的な英語を聞き取り、反応し、さらに自己の考えを表現できるようにする。   |         |     |                             |
| 授業の概要・計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Unit Zero Orientation (1-15回の授業は『English Firsthand New Gold 1』を使用します)</li> <li>2. Unit 1 Meeting new people</li> <li>3. Unit 2 Describing people</li> <li>4. Unit 3 Talking about daily activities</li> <li>5. Unit 4 Describing locations</li> <li>6. Unit 5 Giving directions</li> <li>7. Unit 6 Talking about past activities</li> <li>8. Mid-term test(1)</li> <li>9. Unit 7 Who's talking?</li> <li>10. Unit 8 Getting information</li> <li>11. Unit 9 Talking about plans</li> <li>12. Unit 10 Let's go shopping</li> <li>13. Unit 11 Following instructions</li> <li>14. Unit 12 I love that tune</li> <li>15. Mid-term test(2)</li> <li>16. Unit 1 It's nice to meet you (16-30回の授業は『English Firsthand New Gold 2』を使用します)</li> <li>17. Unit 2 I feel great!</li> <li>18. Unit 3 Where are you going?</li> <li>19. Unit 4 Talking about interests</li> <li>20. Unit 5 I'm really sorry</li> <li>21. Unit 6 Talking about culture</li> <li>22. Mid-term test(3)</li> <li>23. Unit 7 Then and now</li> <li>24. Unit 8 What do we need?</li> <li>25. Unit 9 I've got a problem</li> <li>26. Unit 10 A great story</li> <li>27. Unit 11 What makes a good friend?</li> <li>28. Unit 12 Reaching my goals</li> <li>29. Final test(4)</li> <li>30. Evaluation</li> </ol> |         |     |                             |
| 成績評価の方法   | 出席状況、セメスター中に実施する中間試験、期末試験の結果、授業への参加度（授業毎の参加状況）により総合的に判断する。  |         |     |                             |
| テキスト・参考書等 | テキスト：Marc Helgesen著<br>『English firsthand New Gold 1』 『English firsthand New Gold 2』<br>Longman社 各2,541円  |         |     |                             |
| 履修上の留意点   | テキストと辞書を必ず授業に持参すること。  |         |     |                             |
| 備考        | 辞書は次の2冊のうちどちらかを選んで必ず購入すること。（これら2冊のどちらかを既に持っている人は、改めて購入する必要はありません。これらの辞書は英語学習用辞書であり、専門書を読むための大型辞書ではないので、専門の勉強用には改めて別の辞書を用意してください。）<br>『ニュープロシード英和辞典』Benesse 2,800円、 『ジーニアス英和辞典』大修館 3,360円<br>各学科共通（各年度前期）  |         |     |                             |



| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名           |
|-----------|---|---------|-----|-----------------|
| 英会話       | 全学科選択   | 3       | 2   | Stephen Shucart |
| 授業の目標     | The aim of this course is to improve the conversational ability of the students.  |         |     |                 |
| 授業の概要・計画  | <p>This class is focused on improving conversational ability through the four modalities. First the students will read the conversations in the text at home and provide written answers to the homework comprehension questions based on their reading.</p> <p>Then they will listen to conversations in the target section on the movie, both with English subtitles and with Japanese subtitles. During the viewing the students are required to complete a short film quiz to their comprehension.</p> <p>Finally the students will be put into small groups and they will discuss the key philosophical and pragmatic ideas and major points of the movie.</p> <p>When taking the tests, the students will be required to write detailed predictions of possible future story lines based the ideas and key plot points of the movies.</p> <p>The complex mythological interconnectedness of the three movies will also be emphasized.</p> |         |     |                 |
| 成績評価の方法   | The students will be graded on the basis of attendance, class participation, homework and three quizzes.  |         |     |                 |
| テキスト・参考書等 | The tests will be 'Star Wars IV – A New Hope'; 'Blade Runner'; and 'The Matrix-Screenplay'. 'Star Wars' and 'Brade Runner' texts will be supplied. You must purchase 'The Matrix'.  |         |     |                 |
| 履修上の留意点   | Students must bring a dictionary to class.  |         |     |                 |
| 備考        |   |         |     |                 |

| 授業科目名                                | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名  |
|--------------------------------------|---|---------|-----|--------|
| 英 会 話                                | 全学科<br>選択   | 3       | 2   | 佐藤 クリス |
| 授<br>業<br>の<br>目<br>標                | CALLIとCALLIIで学習した基本的な口語表現の上に、さらにコミュニケーションを広げる中級・上級の口語表現を訓練する。   |         |     |        |
| 授<br>業<br>の<br>概<br>要<br>・<br>計<br>画 | <p>1. The goal of this course is to develop students confidence and fluency/pronunciation skills.</p> <p>2. There is no textbook on the course.</p> <p>3. Three current news stories will provide the focus for each class and students will work in pairs and small groups on related activities to each week's news stories: pronunciation drills, short quizzes, vocabulary exercises, listening exercises and small talk.</p> |         |     |        |
| 成績評価の方法                              | attendance and enthusiasm to speak and class participation  |         |     |        |
| テキスト・参考書等                            | weekly handouts from the teacher  |         |     |        |
| 履修上の留意点                              |   |         |     |        |
| 備考                                   |   |         |     |        |

| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名                                |
|-----------|---|---------|-----|--------------------------------------|
| 英会話       | 全学科選択   | 3       | 2   | <i>Guita Youssefian</i><br>ギタ ユセフィアン |
| 授業の目標     | LLI とLLIIで学習した基本的な口語表現の上に、さらにコミュニケーションを広げる中級・上級の口語表現を訓練する。  |         |     |                                      |
| 授業の概要・計画  | <p>The goal of this class is to help the students with their listening ability which in turn will enable them to communicate more effectively.</p> <p>This excellent text book, <i>Active Listening</i>, provides the students with a balance opportunity to practice their communicative skills, namely their listening and speaking abilities. It will also provide an insight into some interesting cultural differences.</p> <p>Rather than expecting the students to take studies home, the structure of the course is such that through fun and interactive group activities and games the students will get enough practice to improve their listening and conversational skills through participation in the class.</p> <p>The final assessment, therefore, depends on the level of participation in class, amount of effort made, regularity of attendance as well as a term-end exam.</p> |         |     |                                      |
| 成績評価の方法   | 出席、授業態度、Testなどの総合評価。能力だけではなく努力も考慮します。   |         |     |                                      |
| テキスト・参考書等 | <i>Active Listening INTRODUCING</i> Skills for Understanding. Cambridge University Press  |         |     |                                      |
| 履修上の留意点   | The use of a dictionary is recommended.   |         |     |                                      |
| 備考        |   |         |     |                                      |

| 授業科目名     | 必修・選択  | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名   |
|-----------|--|---------|-----|---------|
| 英文講読I     | 選択   | 3       | 2   | 榎木 蘭 鉄也 |
| 授業の目標     | <p>社会人になってから役立つであろう、TOEICの読解問題、TOEFLの読解問題、ニュース英語、科学英語などを、語彙習得と構文理解を中心に演習したい。</p>   |         |     |         |
| 授業の概要・計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション+TOEICミニテスト</li> <li>2. 通常授業1</li> <li>3. 通常授業2</li> <li>4. 通常授業3</li> <li>5. 通常授業4</li> <li>6. 中間テスト</li> <li>7. 中間テスト復習</li> <li>8. 通常授業6</li> <li>9. 通常授業7</li> <li>10. 通常授業8</li> <li>11. 通常授業9</li> <li>12. 通常授業10 (TOEICミニテストなし)</li> <li>13. 期末テスト</li> <li>14. 総復習</li> </ol> |         |     |         |
| 成績評価の方法   | <p>レポート類：テスト＝2：3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 予習レポート（授業前に提出）と復習レポート（授業中に作成）を毎授業で提出。</li> <li>* 中間テスト復習レポートは必須、期末テスト復習レポートは任意で加点対象。</li> <li>* 15回目の総復習では全範囲の単語及び構文の復習テスト（任意）をおこなう（最終点に加点）。</li> <li>* 中間・期末テストの上位者には加点措置をする。</li> <li>* レポートでは継続的な努力の「過程」を、テストでは努力の「結果」を評価したい。</li> </ul>                                |         |     |         |
| テキスト・参考書等 | <p>プリント配布</p>  |         |     |         |
| 履修上の留意点   |  |         |     |         |
| 備考        | <p>授業中に復習レポートを作成するので辞書を持参した方がよい。<br/> （授業時間配分）<br/> TOEICミニテスト（前回分）解説・音読（25分）→課題英文訳読・音読（30分）→TOEICミニテスト解答・答合わせ（10分）→TOEICミニテスト単語調べ（15分）→復習レポート作成（10分）</p>  |         |     |         |

| 授業科目名     | 必修・選択  | 開講セスター | 単位数 | 担当教員名 |
|-----------|--|--------|-----|-------|
| 英文講読 III  | 全学科選択  | 5      | 2   | 桧山 晋  |
| 授業の目標     | 読解力を養成する。  |        |     |       |
| 授業の概要     | <p>英字新聞から題材をとった教科書を使用する。新聞英語に慣れると同時に、正確に速く必要な情報が得られるような読解の技術を練習する。教科書には20課までであるが、その中の12課（1課から12課）程度を授業で扱う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハリケーン・カトリーナが残した傷跡</li> <li>2. イギリスでも認められた同姓婚</li> <li>3. スマトラ島沖地震からの復興の現状</li> <li>4. ねつ造されたES細胞のデータ</li> <li>5. CO2削減への森林効果の落とし穴</li> <li>6. 不透明な米国牛肉の安全性</li> <li>7. 世間と株式市場を騒がせた日本の若き企業家</li> <li>8. めざましい中国の経済成長率</li> <li>9. 鳥インフルエンザのヨーロッパへの脅威</li> <li>10. 風刺漫画が火種となったイスラムの反発</li> <li>11. 中国で発見された新種の恐竜化石</li> <li>12. イギリスのパブにも及んだ嫌煙権</li> </ol> |        |     |       |
| 成績評価の方法   | <p>成績評価の方法<br/>         予定している点数配分：出席・クイズ・課題提出（50点）、定期試験（50点）、平常点（点数は非公開）。</p>   |        |     |       |
| テキスト・参考書等 | <p>テキスト・参考書等<br/>         テキスト：中川一郎（著）『国際報道の英語 2007/2008』 三修社 ISBN978-4-384-33372-5 1890円</p>  |        |     |       |
| 履修上の留意点   | <p>履修上の留意点<br/>         テキストと辞書を持参すること。</p>  |        |     |       |
| 備考        | <p>備考<br/>         必ず予習の上出席すること。2回以上連続して欠席した場合は説明する文書と診断書等を提出すること（『実験や他の授業で忙しい』は言い訳にならない）。</p>   |        |     |       |

| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セスター | 単位数 | 担当教員名 |
|-----------|---|--------|-----|-------|
| 英文講読Ⅳ     | 全学科選択   | 7      | 2   | 高橋 守  |
| 授業の目標     | 内容、言語材料ともに更にレベルの高い教材を読ませる。専攻の専門への導入となる評論文を正確な理解力をもって解釈できるようになることを目標とする。   |        |     |       |
| 授業の概要・計画  | <p>英語で書かれた評論文の構成を学び、英文を読む技術を身につける。学習者が興味を持って学ぶ事が出来るように、評論文の題材は現代生活に直結した話題となっている。また教材には、これから英語を使う上で必ず役に立つ語彙（ボキャブラリー）が、数多く収録されているので、それらの役に立つ表現が身につけられるような授業を予定している。</p> <p>ユニット毎の話題と授業の進み方は、以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>0. ガイダンス</li> <li>1. <i>Finding the Ideal Job</i> 職業を見つけることについて</li> <li>2. <i>The Country and the City</i> 田舎の暮らしと都会の暮らしについて</li> <li>3. <i>Money</i> お金について</li> <li>4. <i>Save the Elephants</i> 動物保護について</li> <li>5. <i>Network Etiquette</i> インターネット上のエチケットについて</li> <li>6. 復習</li> <li>7. Unit1-Unit5 試験</li> <li>8. <i>Male and Female Roles</i> 男女の役割について</li> <li>9. <i>Food</i> 有機栽培食品について</li> <li>10. <i>The Climate Train</i> 旅行について</li> <li>11. <i>Health and Illness</i> 健康と病気について</li> <li>12. <i>Endangered Cultures</i> 消えてゆく文化について</li> <li>13. 復習</li> <li>14. Unit6-Unit7 試験</li> </ol> |        |     |       |
| 成績評価の方法   | 出席(20%)、授業への参加の熱意度(20%)、2回の試験(10%+10%)、宿題(20%)、小テスト(20%)  |        |     |       |
| テキスト・参考書等 | テキスト:Francis Boyd and Carol Numrich(編)『NorthStar Reading/Writing Basic Low Intermediate』(CD付)(Longman) 2,900円+税 ISBN 013184671X   |        |     |       |
| 履修上の留意点   |   |        |     |       |
| 備考        |   |        |     |       |

| 授業科目名     | 必修・選択  | 開講セマスタ- | 単位数 | 担当教員名 |
|-----------|--|---------|-----|-------|
| 実践英語 II   | 全学科選択  | 5       | 2   | 松山 晋  |
| 授業の目標     | TOEIC形式の演習を通して、英文法の基礎を確認し、実用的な英語力をつける。   |         |     |       |
| 授業の概要     | <p>1回の授業で教科書を1課扱い、さまざまな場面で使われる表現、文法を学習する。教科書には20課までであるが、その中の12課（1課から12課）程度を授業で扱う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. At an Airport</li> <li>2. At a Hotel</li> <li>3. On the Street</li> <li>4. At a Restaurant</li> <li>5. Shopping</li> <li>6. At a Bank</li> <li>7. Taking a Trip</li> <li>8. Seeing the Doctor</li> <li>9. Renting an Apartment</li> <li>10. Sports</li> <li>11. Job Hunting</li> <li>12. Talking on the Phone</li> </ol> |         |     |       |
| 成績評価の方法   | <p>予定している点数配分：出席・クイズ・課題提出（50点）、定期試験（50点）、平常点（点数は非公開）。</p>  |         |     |       |
| テキスト・参考書等 | <p>テキスト：松岡昇（著）『新・基礎から始めるTOEICテスト対策教本』（CD1枚付属）金星堂<br/>ISBN4-7647-3818-X 2050円</p>   |         |     |       |
| 履修上の留意点   | <p>テキストと辞書を持参すること。</p>   |         |     |       |
| 備考        | <p>必ず予習の上出席すること。2回以上連続して欠席した場合は説明する文書と診断書等を提出すること（『実験や他の授業で忙しい』は言い訳にならない）。</p>   |         |     |       |

| 授業科目名     | 必修・選択  | 開講シメスター | 単位数 | 担当教員名 |
|-----------|--|---------|-----|-------|
| 英語表現      | 全学科選択  | 5       | 2   | 高橋 守  |
| 授業の目標     | 説得力を持つ英語文章を作成し、自分の意見を英語で表現する基本的な技術を習得する。   |         |     |       |
| 授業の概要・計画  | <p>英語で文章を書く技術を学ぶ。特に課題に基づいて読み手が理解しやすい文章を書くために必要なテクニックを学ぶ。話す、聞く、読む、活動も同時に行い、無理なく英語力がアップできるようにする。</p> <p>ユニット毎の話題と授業の進み方は、以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとネームゲーム</li> <li>2. Unit1: Chapter1 Right Brain or Left Brain 脳と個性について</li> <li>3. Unit1: Chapter2 The Shape of the Face 顔と個性について</li> <li>4. Unit2: Chapter3 Potatoes ジャガイモについて</li> <li>5. Unit2: Chapter4 Delicacies 御馳走について</li> <li>6. Unit3: Chapter6 Celebrating Fifteen 一人前になる年齢について</li> <li>7. 第1回テスト</li> <li>8. Unit4: Chapter8 The World's Most Unusual Millionaire 変人について</li> <li>9. Unit5: Chapter10 Killer Bees 殺人蜂について</li> <li>10. Unit6: Chapter11 Corn Flakes コーンフレークについて</li> <li>11. Unit6 Chapter12 Robots ロボットについて</li> <li>12. Unit7 Chapter13 It's the Law 法律について</li> <li>13. 第2回テスト</li> <li>14. まとめの活動</li> </ol> |         |     |       |
| 成績評価の方法   | 出席(20%)、授業への参加の熱意度(20%)、2回のテスト(10%+10%)、宿題(20%)と小テスト(20%)  |         |     |       |
| テキスト・参考書等 | テキスト：Milada Broukal著『Weaving It Together2』(Thomson/Heinle) 2,600円+税  |         |     |       |
| 履修上の留意点   |  |         |     |       |
| 備考        |  |         |     |       |



| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名 |
|-----------|---|---------|-----|-------|
| 体育実技Ⅱ     | 選択<br>電子A・B<br>建築   | 3       | 1   | 長澤吉則  |
| 授業目標      | <p>本授業では、適切な身体運動・スポーツ活動が心身の健康に良い影響を与えることを、主体的に選択したスポーツ種目の実践を通して理解する。また、スポーツの楽しさをより深く理解するために必要なルールやマナー、スポーツ技術および基礎的戦術を理解し、身につける。安全に身体運動・スポーツ活動を行うための適切なウォーミングアップと、クーリングダウンを主体的に実践できるよう身につける。</p>   |         |     |       |
| 授業の概要・計画  | <p>授業の目標を達成するために、実践に必要な施設用具の整ったスポーツ種目（テニス、ソフトボール、サッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球その他）の中から、受講生が主体的に選択したスポーツ種目をゲーム中心に実践する。また、準備運動、整理運動の重要性を理解させ、事故防止の高揚に努める。なお、ゲーム中心に実践するので、施設の関係や選択者が少なくチーム編成ができない場合には、実施種目を制限することもある。また、雨天時には実施種目の変更もあり得る（例1. トレーニング施設を利用した体力・健康維持増進プログラムを実践する。例2. 屋内競技にフットサルを取り入れる等）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習課程（目的、意義、内容、成績等）の説明。スポーツ種目の選択（グルーピング）。</li> <li>2. 各スポーツ種目の基本技術の確認と習得、ルールの確認と理解。</li> <li>3. 試しのゲームあるいはミニゲームの実践。</li> <li>4. ゲーム分析、戦術の検討、技能と体力、運動能力との関係の検討。</li> <li>5. ゲームの観察、勝敗に対する検討、ゲームによる身体的精神的スキル評価。</li> </ol> |         |     |       |
| 成績評価の方法   | <p>出席状況、授業時の活動状況、学習意欲を特に重視し、レポート等により達成度を評価する。総合的評価は、出席状況が50%、活動状況が30%、学習意欲20%とする。レポート課題は見学回数が多い者に課し、出席状況に加点する。評価の対象としない欠席(割合)条件は、1/4以下とする。</p>  |         |     |       |
| テキスト・参考書等 | <p>参考書：大修館書店編集部編『最新スポーツルール百科2006』大修館書店、¥1,680</p>   |         |     |       |
| 履修上の留意点   | <p>あらかじめ体育実技Ⅰを履修していることが望ましい。</p>  |         |     |       |
| 備考        | <p>スポーツ活動に適した服装や履き物（屋内・屋外用）を準備すること。</p>   |         |     |       |

| 授 業 科 目 名                            | 必修・選択  | 開講セスター | 単位数 | 担 当 教 員 名 |
|--------------------------------------|--|--------|-----|-----------|
| 体育実技 I                               | 選択<br>〔電子A・B〕<br>建築  | 1      | 1   | 森 田 信 博   |
| 授<br>業<br>の<br>目<br>標                | 生涯にわたってスポーツの楽しさを享受するために、自らスポーツを選択し、仲間と協力して基本練習やゲームをおこないながら、技能向上や体力の増進を図る。さらにお互いに審判をおこなったり、より充実した活動方法を工夫実践して、将来にわたってスポーツ活動が継続的にできるような能力や方法を身につけるようにする。  |        |     |           |
| 授<br>業<br>の<br>概<br>要<br>・<br>計<br>画 | <p>高校までにおこなってきた体育を更に進め、受講生の経験、趣味、関心をもとに、主体的に各種のスポーツ種目を選択し、基本技術とゲームについて学習していく。ゲームに際しては、正式のルールと特別ルールの採用や審判等をおこないながら、選択種目をさらに深く理解していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ種目（バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、サッカー、ソフトボール等）の選択、グルーピング、学習過程の説明。</li> <li>2. 各種スポーツ種目の基本技術の知識と練習、採用ルールの確認、ミニゲーム（試しのゲーム）。</li> <li>3. チーム対抗のトーナメント戦ないしはリーグ戦形式でのゲーム学習。</li> <li>4. まとめとしてのゲームの観察、勝敗に対する検討、基本的な技能テスト。</li> </ol> |        |     |           |
| 成績評価の方法                              | 選択したスポーツ種目の基本的な技術試験と出席状況、服装などの受講態度を総合的に判断して評価する。   |        |     |           |
| テキスト・参考書等                            | 特になし。  |        |     |           |
| 履修上の留意点                              | 指定のユニフォームはないが、運動をするにふさわしい服装とし、ジーンズ、ワイシャツなどは認めない。体育館用の内靴も必ず用意すること。  |        |     |           |
| 備考                                   |  |        |     |           |

| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名 |
|-----------|---|---------|-----|-------|
| 体育実技Ⅱ     | 選択<br>(機械A)   | 3       | 1   | 森田信博  |
| 授業の目標     | <p>生涯にわたってスポーツの楽しさを享受し、健康や体力の維持増進を図っていくために、体育実技Ⅰの授業をさらに進め、広い視野からスポーツを選択し、仲間と協力して基本練習やより高度なゲームをおこないながら、技術向上や体力の増進を図り、さらに心身の健康についても配慮できるようにする。そのためにお互いに審判をおこなったり、より充実した活動方法を工夫実践して、将来にわたってスポーツ活動が継続的にできるような能力や方法を身につけるようにする。</p>  |         |     |       |
| 授業の概要・計画  | <p>体育実技Ⅰの授業をさらに発展させ、受講生の経験、興味、関心をもとに、主体的に各種のスポーツ種目を選択し、基本技術、応用技術とゲームについて学習していく。ゲームに際しては、正式のルールと特別ルールの採用や審判等をおこないながら、選択種目をさらに深く理解し、健康、体力などとの関連を検討していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ種目（バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、サッカー、ソフトボール等）の選択、グルーピング、学習過程の説明</li> <li>2. 各種スポーツ種目の基本技術の知識と練習、採用ルールの確認、ミニゲームにより正式なルールに基づくゲームの経験。</li> <li>3. チーム対抗のトーナメント戦ないしはリーグ戦形式でのゲームの学習。ゲーム分析、戦術などの検討、技能と体力、運動能力などの関連の検討。</li> <li>4. まとめとしての、ゲームの観察、勝敗に対する検討、基本的な技能テスト。</li> </ol> |         |     |       |
| 成績評価の方法   | <p>選択したスポーツ種目の基本的な技能試験と出席状況、活動状況、服装などの受講態度を総合的に判断して評価する。</p>  |         |     |       |
| テキスト・参考書等 | <p>特になし。</p>  |         |     |       |
| 履修上の留意点   | <p>指定のユニフォームはないが、運動をするにふさわしい服装とし、ジーンズ、ワイシャツなどは認めない。体育館用の内靴も必ず用意すること。</p>  |         |     |       |
| 備考        |   |         |     |       |

| 授業科目名                                | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名 |
|--------------------------------------|---|---------|-----|-------|
| 体育実技 I                               | 選択  | 1       | 1   | 加藤清孝  |
| 授<br>業<br>の<br>概<br>要<br>・<br>計<br>画 | <p>適切な身体活動（スポーツを含む）が、心臓疾患の軽減など身体に良い影響を及ぼすことは今日広く知られている。一方で身体活動は、ストレスを軽減し生活の質（QOL）の向上に大きく貢献することもわかってきた。本授業では、参加者が生涯にわたってスポーツ活動が続けられる基礎となるよう、各種スポーツの基本技術とルールを習得を旨るとともに、スポーツ活動を通して参加者同士のコミュニケーションの促進を期待するものである。</p> <p>本授業では、参加者がその技術レベルや体力レベル、性別にかかわらずスポーツが楽しめるよう、ニュースポーツといわれるレクリエーションスポーツを主に行うものとする。具体的には次のスポーツを扱う：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● スローピッチソフトボール</li> <li>● フライングディスク（オルティメット）</li> <li>● タッチラグビー</li> <li>● フットサル</li> </ul> <p>また授業は次のように展開される</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要・学習過程の説明<br/>各スポーツ種目において、</li> <li>2. 基本技術の確認と習得、ルールの確認と理解</li> <li>3. ミニゲームの実践</li> <li>4. トーナメント</li> </ol> |         |     |       |
| 成績評価の方法                              | <p>出席状況（50%）、授業時の活動状況（30%）、レポート（20%）を特に重視する。総授業数の4分の1以上欠席した場合は、成績評価をしない。やむをえない理由で欠席する場合は、事前に連絡をすること。</p>  |         |     |       |
| テキスト・参考書等                            | <p>特になし。</p>  |         |     |       |
| 履修上の留意点                              | <p>特になし。</p>  |         |     |       |
| 備考                                   | <p>スポーツ活動に適した服装やシューズ（屋内・屋外用）を準備すること。ジーンズやチノは認められない。</p>   |         |     |       |

| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名                     |
|-----------|---|---------|-----|---------------------------|
| 創造科学の世界A  | 必修（機械）  | 1       | 2   | 機械知能システム学科 全教員<br>（係：学科長） |
| 授業の目標     | 物づくりの基礎的学問分野の一つである機械知能システム学の専門科目を履修するにあたり、特に機械の知能化、システム化に関する分野を、実物教授などの教育方法を用いて体験的な学習を行ない、本学問分野に対する目的意識を持たせて有意義な大学生活を送らせることを目標とする。  |         |     |                           |
| 授業の概要・計画  | <p>ビデオ、OHP、机上実験をはじめいろいろな補助教材を用いて学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械知能システム学を学ぶ楽しさ（ガイダンス）</li> <li>2. 物の変形を積極的に利用しよう</li> <li>3. 機械材料を知能化する楽しさ</li> <li>4. 環境とエネルギー問題を考えよう</li> <li>5. 紙飛行機を設計製作して競争しよう</li> <li>6. ミクロな世界の外観</li> <li>7. 物をつくるための無人化工場は誕生するか</li> <li>8. 機械はどのような工程で作られるか（工場見学）</li> <li>9. マイクロマシンの将来</li> <li>10. 日常生活で制御されている物を探そう</li> <li>11. 21世紀の人に優しいロボットをつくろう</li> <li>12. 水飲み鳥はどうして動くか</li> <li>13. 熱気球をあげてみよう</li> </ol> |         |     |                           |
| 成績評価の方法   | <p>複数のレポート（40%）、課題テーマの小論文（60%）などと出席状況を含めて総合的に判断して評価する。</p>  |         |     |                           |
| テキスト・参考書等 | <p>参考書などは特に使用しないが、参考文献・プリントなどを配布することがある。</p>  |         |     |                           |
| 履修上の留意点   | <p>授業の概要・計画中の各項目について、各自の考えをあらかじめ準備しよう。</p>  |         |     |                           |
| 備考        | <p>学習課題のテーマおよび順序は変更することがある。<br/>良い友達をつくるとともに、積極的に意見を述べあおう。</p>  |         |     |                           |

| 授業科目名     | 必修・選択  | 開講セスター | 単位数 | 担当教員名 |
|-----------|--|--------|-----|-------|
| 創造科学の世界B  | 必修（電子）   | 1      | 2   | 竹内伸直他 |
| 授業の目標     | <p>専門科目への導入部の一環として、今日の情報化社会の基礎をなす電子情報システムの構成や関連する学術分野の研究課題などを解説し、科学技術の将来展望について問題意識の形成を図る。</p>  |        |     |       |
| 授業の概要・計画  | <p>電子情報システム学科が対象とする専門分野の研究課題や、それに関連する社会的課題などについて、各教員によるオムニバス形式で、次のようなテーマについて講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 液晶エレクトロニクスの世界</li> <li>2. 制御系の神髄：フィードバック</li> <li>3. モーター：古くて新しいエネルギー変換機</li> <li>4. プラズマと核融合装置</li> <li>5. 極微小世界の探索</li> <li>6. 視覚ディスプレイの過去、現在、未来</li> <li>7. 電子と材料</li> <li>8. 地震により電磁波は発生する？</li> <li>9. 宇宙の創生と核融合</li> <li>10. 計算機科学最大の問題</li> <li>11. 自然現象の数学的モデルと計算機モデルについて</li> <li>12. 高度情報化社会を担う通信システム</li> <li>13. 聴覚ディスプレイ</li> <li>14. コンピュータで画像を処理する</li> </ol> |        |     |       |
| 成績評価の方法   | <p>出席および5通のレポートによって成績の評価を行う。</p>   |        |     |       |
| テキスト・参考書等 | <p>参考書は特に使用しないが、授業においてプリント等を配布することがある。</p>   |        |     |       |
| 履修上の留意点   |  |        |     |       |
| 備考        | <p>上のテーマおよび順序は変更することがある。</p>   |        |     |       |

| 授業科目名     | 必修・選択  | 開講セクター | 単位数 | 担当教員名                  |
|-----------|--|--------|-----|------------------------|
| 創造科学の世界C  | 必修（建築）   | 1      | 2   | 建築環境システム学科<br>教員（○学科長） |
| 授業目標      | <p>建築環境システム学科の専門科目の履修に先立ち、建築の成り立ちとその変遷を学ぶとともに、建築学の学問体系の概要を理解する。また、社会における建築の役割を認識し、「建築環境のシステム」という、新たな建築学の概念をとらえる。</p> <p>様々な専門的視点を会得し、建築がどのような要素で成り立ち、また、どのような役割を担っているか理解することを目標とする。</p>  |        |     |                        |
| 授業の概要・計画  | <p>建築がどのようにつくられ、またそのつくり方によって人間と環境との関係がどのように変化していったかを概説し、建築がどのような要素で成り立ち、どのような社会的役割を担っているかについて、オムニバス形式により、建築学の様々な分野から講義する。</p> <p>1. 建築の誕生と発展<br/>人類がどのようにして居住空間を獲得し、その後、それをいかに計画し、つくっていったかを概説する。</p> <p>2. 建築と自然環境<br/>建築は、常に周囲の自然環境と深く関係している。その環境のとらえ方について概説するとともに、いかにして自然環境と共生していくかを考える。</p> <p>3. 素材と建築空間<br/>建築空間は、それを構成する素材の選択により大きく変化する。素材の特性について概説し、その特性が建築、さらには生活文化とどのように関わっているかを論じる。</p> <p>4. 建築の構成<br/>建築構造物をつくるためには、どのような部材が必要で、それをどのように構成すればよいのかを、実例を基にして学ぶ。</p> <p>5. 構造物の世界<br/>いまや建築構造物は、超々高層、巨大ドームなど、かつての夢の空間を実現しつつある。このような建築構造物を支える技術と、今後の可能性について論じる。</p> <p>6. 建築と社会、建築環境システム<br/>建築が居住空間から都市空間まで、人々の生活、社会に深く関わっていることを認識し、それらをいかにして健全なシステムとしていくかを考える。</p> |        |     |                        |
| 成績評価の方法   | <p>様々な専門的視点から建築の成り立ちと役割を複眼的に理解していることを単位修得の条件とする。課題レポートなどに基づいて理解度を判定し、成績を評価する。</p>  |        |     |                        |
| テキスト・参考書等 | <p>参考書：建築概論編集委員会編、『建築概論（第三版）』、彰国社、2,760円</p>   |        |     |                        |
| 履修上の留意点   |  |        |     |                        |
| 備考        | <p>上のテーマおよび順序は変更することがある。</p>   |        |     |                        |

| 授業科目名                            | 必修・選択  | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名           |
|----------------------------------|--|---------|-----|-----------------|
| 創造科学の世界D                         | 必修（経営）   | 1       | 2   | 経営システム工学科<br>教員 |
| 授業<br>目標                         | 経営システム工学科の専門科目を履修するにあたり、経営感覚を身につけた技術者養成の大切さを理解させ、経営工学を学ぶ楽しさを実感させることにより、勉学の目的意識を持ち、有意義な大学生活を送らせることを目指す。   |         |     |                 |
| 授業<br>の<br>概<br>要<br>・<br>計<br>画 | <p>人、モノ、金、情報及び環境など複雑多様化した社会システムの問題点を分析・解析する基本的な概念を学ぶ。また、自らが問題点を考え、それを解決する方法を発見し、実行していくためのプロセスを実習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営システム工学における数理的方法と統計について</li> <li>2. 動作計測手法と意思決定手法の例</li> <li>3. 社会経済システムの解析手法の基本とその具体的適用例</li> <li>4. 企業経営における情報システムの活用法の基本</li> <li>5. 組織体の管理・運営・意思決定手法の基本</li> <li>6. 金とモノの管理の仕方の基本</li> <li>7. モノ作りの管理手法の基本及び人間本意のシステム設計の考え方</li> <li>8. モノ作りに伴う環境管理とリスクアセスメントの基本</li> <li>9. 身の回りの材料の機能及び選び方と作り方の基本</li> <li>10. 循環型社会システムに向けたモノ作りのあり方</li> <li>11. 調査研究</li> </ol> |         |     |                 |
| 成績評価の方法                          | 最終回の講義の後、課題テーマのレポートを提出。出席も参考とする。   |         |     |                 |
| テキスト・参考書等                        | その都度指定する。  |         |     |                 |
| 履修上の留意点                          |  |         |     |                 |
| 備考                               |  |         |     |                 |



| 授業科目名     | 必修・選択   | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名   |
|-----------|---|---------|-----|---------|
| 科学技術史     | 必修<br>(機械・経営)   | 1       | 2   | 神 山 新 一 |
| 授業の目標     | 日本はなぜ、いち早く近代科学技術の導入に成功したのか。急激な科学技術の発展によって現代社会で引き起こされている様々な問題の解決策はあるのか。こうした問題について科学技術の歴史を学び、多くの偉大な先人が残した業績を辿ることにより、その中から、学生が今後の科学技術の果たす役割を理解し、エンジニアとしての進むべき道を探求するための指針を与える。  |         |     |         |
| 授業の概要・計画  | <p>人類の誕生以来、文明の発達とともに進展してきた科学技術の歴史を学び、現代科学技術者の進むべき道を考察する。特に、最近の100年間の科学技術の発展は目覚ましいものがあり、人類の福祉の増進に多大な貢献をする反面、環境破壊や資源の浪費、さらに核兵器の開発など現代的矛盾を生み出している。こうした時期にあって、科学技術に対して如何なる態度を取ろうとするのか、その現状に関して可能な限り正確な知識を持ち、自らの判断と展望をえるために科学技術の歴史展開を習得する。</p> <p>序論；科学技術史概観（科学と技術の概念、20世紀での急激な進展）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人類の誕生と文明の発達（原始社会から鉄器時代までの変遷）</li> <li>2. 古代・中世の科学（古代ギリシャ・ローマ時代から中世社会の科学まで）</li> <li>3. ルネッサンス（14-16世紀）と科学革命（16世紀半ばからの学問体系の近代化）</li> <li>4. 産業革命と科学技術（道具から機械への変革）</li> <li>5. 日本の科学技術の発展（大陸文化の移入と日本文化の形成、蘭学の勃興と隆盛）</li> <li>6. 現代の技術革新（動力と材料の技術革新、大企業の発生と研究機関）</li> <li>7. 現代的矛盾の発生と科学技術（物理学の発展、生命科学、公害問題と環境科学）</li> <li>8. 日本の科学技術の発展（2）明治維新後の科学技術（明治維新と第2次大戦後の復興）</li> </ol> <p>最終章. これからの科学技術者の心構え<br/>補遺 (1) 技術開発から実用化へ向けての努力<br/>(2) 20世紀の科学技術者のエピソード (Time誌より)</p> |         |     |         |
| 成績評価の方法   | 出席状況、課題テーマのレポート、セメスター終了時の筆記試験により総合的に判断する。   |         |     |         |
| テキスト・参考書等 | <p>テキスト：毎週プリントを配布する。</p> <p>参考書：「科学技術史概論」山崎・大沼・菊池・本木・道家 共編、オーム社</p>   |         |     |         |
| 履修上の留意点   |   |         |     |         |
| 備考        |   |         |     |         |

| 授業科目名     | 必修・選択  | 開講セメスター | 単位数 | 担当教員名 |
|-----------|--|---------|-----|-------|
| 科学技術史     | 必修<br>(電子、建築)  | 1       | 2   | 佐藤宗純  |
| 授業目標      | <p>日本はなぜ、いち早く近代科学技術の導入に成功したのか。急激な科学技術の発展によって現代社会に引き起こされている様々な問題の解決策はあるのか。こうした問題について科学技術の歴史を学び、多くの偉大な先人が残した業績を辿ることにより、その中から、学生が今後の科学技術のはたす役割を理解し、エンジニアとして進むべき道を探求するための指針を与える。</p>   |         |     |       |
| 授業の概要・計画  | <p>人類の誕生以来、文明の発達とともに進展してきた科学技術の歴史を学び、現代科学技術者の進むべき道を考察する。特に、最近の100年間の科学技術の発展は目覚ましいものがあり、人類の福祉の増進に多大な貢献をする反面、環境破壊や資源の浪費、さらに核兵器の開発など現代的矛盾を生み出している。こうした時期にあって、科学技術に対していかなる態度を取ろうとするのか、その現状に関して可能な限り正確な知識をもち、自らの判断と展望を得るために科学技術の歴史展開を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概論－科学と技術の関係、科学技術史概観</li> <li>2. 人類の誕生と文明の発達－道具の発達と古代文明</li> <li>3. 鉄器の普及と自然哲学－古代ギリシャ、古代ローマの科学と技術</li> <li>4. 東西交流とルネサンス－中世社会と科学</li> <li>5. マニファクチャと機械論的自然観－道具の変革、科学革命</li> <li>6. 産業革命－技術の体系化と技術学の成立</li> <li>7. 近代科学の形成－電磁気学、熱力学の形成</li> <li>8. 日本の科学技術Ⅰ－大陸文化の移入、独自文化、蘭学の発展</li> <li>9. 科学と技術の接近－動力と材料の技術革新、大企業の発生と研究機関</li> <li>10. 現代的矛盾の発生－物理学の変革、生化学の発達、オートメーション、第二次世界大戦</li> <li>11. 日本の科学技術Ⅱ－日本の産業革命、大戦の影響</li> <li>12. 現代科学技術の発展－原子力・エレクトロニクス・素粒子・生命科学・宇宙</li> <li>13. 科学技術の功罪と科学技術者の心構え－巨大科学、環境問題、情報化社会</li> </ol> |         |     |       |
| 成績評価の方法   | <p>課題テーマのレポート、期末試験により総合的に判断する。</p>   |         |     |       |
| テキスト・参考書等 | <p>適宜、プリントを配布<br/>参考書：山崎・大沼・菊池・木本・道家（共著）『科学技術史概論』オーム社、3、360円</p>   |         |     |       |
| 履修上の留意点   |  |         |     |       |
| 備考        |  |         |     |       |